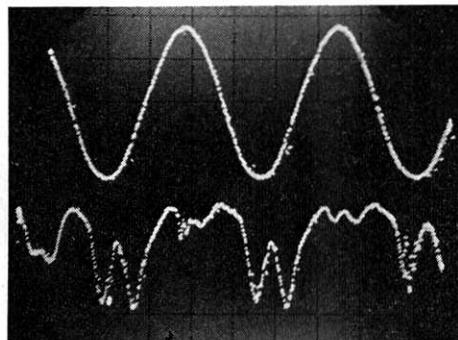
図 13 図 13 に比し、パルスの位相が 180° 变化している

図 14 変則的なパルス

8. 3% 透過率反射鏡によるモード同期

free running の帯域 (スペクトル) が広い、および, LiNbO₃ の負荷電力が小さくできる等により、実験は、主に 6.8% mirror を用いたが、下記は、3% mirror を用いた時のパルス特性である。

図 12, 13, 14 は同一条件で観測される種々のパルスであるが、このうち、13、または、14 が通常見られる。

9. 結論

現在得られるパルスは、発振スペクトル帯域、等価的 loss 等により制限され、半値幅、550 psec 程度である。さらにパルスを鋭くするには、エタロン効果の完全な除去、偏波面の確定等、不必要的 loss を除去する必要があると考えられる。また、機械的振動、optical damage 等も改善しなければならない。(1971年10月11日受理)

(p. 27よりつづく)

- 2) 後藤信行、時田澄男：生産研究 23, 166 (1971)
- 3) 後藤信行、李章鎬、時田澄男：生産研究 23, 146 (1971)
- 4) Paul E. Fanta: *Chem. Rev.*, 38, 139 (1946)
James Forrest: *J. chem. Soc.*, 1960, 566
- 5) P. H. Gore, G. K. Hughes: *J. chem. Soc.*, 1615 (1959)
- 6) 永井芳男、後藤信行、小川昭二郎：有合化 28, 930 (1970)
- 7) M. Busch, W. Weber, H. Zink: *J. Prokt. Chemie*

- 155, 163 (1940)
- 8) 後藤信行、時田澄男、李章鎬：生産研究 22, 482 (1970)
永井芳男、長沢孝太郎：工業 69, 74 (1966)
- 9) Kleiderer, E. C. Adams: *J. Am. Chem. Soc.*, 55, 4219
- 10) 後藤、時田、湯浅、佐藤、李：生産研究 21, 470 (1969)
- 11) P. E. Fanta: *Chem. Rev.*, 64, 613 (1964)

正誤表(11月号)

ページ	段	行	種別	正	誤
2			図 1	横軸の原点 1	横軸の原点 0
4	右		図 5 説明文	必要な関係を示す。	必要な関係も示す。
29	"	下2	本文	パワー・スペクトル・レベル	パワー・スペクトルレ・ベル